

## 伝染性単核球症

伝染性単核球症は、咽頭炎、発熱、リンパ節の腫、疲労を引き起こす感染症です。

### 伝染性単核球症の原因

伝染性単核球症は唾液を介して伝染します。キス、眼鏡や食器の共有、咳で拡散した粒子などで感染する可能性があります。通常、EB（エプスタイン・バー）ウイルスが原因です。ほとんどの場合、ティーンエイジャーや若年成人が罹患します。

同様の症状を引き起こす病気には、他のウイルスによる咽頭炎、連鎖球菌、サイトメガロウイルス感染が挙げられます。

### 症状

ほとんどの患者は喉の痛み、発熱、頭痛があり、疲れや疲労感を認めます。また、頸部、耳の後ろ、さらには頭の後ろのリンパ節が腫れます。また扁桃腺には白い膿が付き、上口蓋（上顎の屋根部分）に小さな赤い点が見られます。

### 検査

血液検査ではリンパ球（病名の単核球に相当します）が増加し、特に異型リンパ球と呼ばれる感染に反応したリンパ球が認められます。リンパ球は危険なものではなく、ウイルスとの戦いを助ける白血球です。EBウイルスやサイトメガロウイルスの抗体検査もします。

### 治療

主な治療は休息です。発熱や痛みに対してアセトアミノフェン、イブプロフェンなどの薬を服用することもあります。重度の症例や合併症のある患者にはコルチコステロイドを処方することがあります。十分な休息を取るべきですが、1日中臥床する必要はなく、そうしたからといって経過は改善しません。伝染性単核球症による扁桃腺炎に抗生物質は役に立ちません。むしろ一般によく使用されるβラクタム系抗生物質は、この病気ではアレルギー反応を起こしやすく、使うべきではありません。伝染性単核球症では、感染に対する反応によって脾臓が腫大します。腫大した脾臓は強い外力で破裂する可能性があるため、接触の激しいスポーツや腹部に外力が加わる動作は、回復するまで避けるべきです。完全に回復するまでには3ヶ月以上かかることもあります。

